

宮城から、伝えたいこと。

つながれ、どこまでも

Baton

バトン

VOL.

07

FROM MIYAGI

特集

新しい視点 抗う勇気

きて・みて
in 塩竈市

- 塩竈市津波防災センター
- 塩竈市東日本大震災モニュメント
- 塩釜水産物仲卸市場



テーマ：

災害と新しい知見

machico防災部といっしょ：身近にあるものでフェーズフリーなアイテムを作ろう
あしたのクリエイティブ：NPO法人「FOR YOUにこにこの家」の仙台発そなえゲーム

バトンとは

世代や地域を越えて広く「伝える」、リレーのバトンのように「つなげていく」という意味を込めています。
県内外や幅広い世代の方々が復興・伝承に興味を持ち、被災地へ足を運んでいただくことを目的に発行しています。

新しい視点

震災からの復興に向けた歩みを進める途上で
 地域には様々な課題が生まれました。
 その解決のための力となったのは、
 従前からの常識や地域の
 当たり前にとらわれない「新しい視点」。
 「新しい視点」には一人ひとりの生き方を、
 そして地域の未来をも変える力があります。



写真提供:JRフルーツパーク仙台あらはま

津波被害が甚大だった仙台市若林区
 荒浜地区。住民が移転し、空き地とな
 った広大な土地の一角は、年間を通し
 て四季折々の果物の摘み取りを楽しむ
 ことができる観光農園に生まれ変わら
 しました。地域に及ぼす効果は、それま
 で地域になじみがなかった果樹栽培と
 いう分野の開拓にとどまらず、交流人
 口の拡大、産業振興、雇用促進、食育
 の推進など多岐にわたります。かつて
 の被災地から新たな魅力と大きな可能
 性を見出したプロジェクトは、周辺エ
 リアも巻き込みながら進化を続けてい
 ます。

域に漂っていた被災と観光を結び付け
 ることへの強い拒否感の中で、自身も
 被災した老舗ホテルの4代目社長は、
 被災の経験や教訓を伝承することこそ
 が復興につながるの思いを胸に観光
 振興に取り組みました。現在は、地元
 では当たり前ととらえられている美し
 い自然や景勝地をSDGsの視点と結
 び付けた新たな観光プログラムの開発
 に取り組んでいます。

どちらの取組にも共通しているのは、
 当たり前と思われていることにとらわ
 れない「新しい視点」と「抗う勇氣」。
 それらは、震災から12年経った今も地
 域を支え、前に進む原動力となっています。

同じく、津波被害が甚大だった気仙
 沼市。震災直後からしばらくの間、地

抗う勇氣

写真提供:宮城県観光プロモーション推進室



観光農園で

沿岸部被災地を賑わいの場へ

ブライダル業界から農業に人生をシフト

JRフルーツパーク仙台あらはま

仙台市若林区荒浜の「JRフルーツパーク仙台あらはま」は、約11ヘクタールという広大な敷地で8品目150品種以上の果物を栽培する体験型大規模観光農園。2021年3月、仙台ターミナルビル株式会社の子会社として開業しました。1年を通してフルーツ狩りを楽しめるほか、ホテルメトロポリタン仙台のシェフがプロデュースするカフェレストラン「Les Pommés」や園内で取れた果物や地元産の食材・加工品を販売する直売所「あらはまマルシェ」も併設。多くのファンに親しまれています。

株式会社の子会社プロジェクトは仙台市が公募していた集団移転跡地活用事業に2018年3月に採択され、被災地復興と農業振興という大きな理念の下、被災地に賑わいを取り戻すための様々な事業に取り組んでいます。

現在、企画運営に携わる農園スタッフの郷内幸美さんも、元々はホテルメトロポリタン仙台のブライダル部門に在籍していましたが、社内の新規事業として農業部門スタッフの募集があった時に思い切った応募しました。

「農家に生まれ育ちましたので収穫の喜びも知っていますし、食や一次産業の重要さまで理解しています。ブライダルの仕事をしながら、いつかは農業をという思いを抱いていたんです。震災後は地元



子どもや海外からの旅行者、誰もが楽しめる場に

来場者は家族連れが中心ですが、秋口になると幼稚園や小学校低学年の教育旅行が増加。小学校高学年・中学生の職場体験も受け入れています。夏はトウモロコシ狩り、10月はサツマイモの芋掘り遠足と、食育を兼ねた収穫体験も楽し

めます。「リンゴやトマトが嫌いなお子さんが収穫したものをおいしそうに食べた」とびっくりする親御さんが多いんですよ。クレープやスムージーの調理体験では、お家ではできないことがちゃんとできると

感激される親御さんもいました。一方で、苦さや酸っぱさを知らない子どもが多いのが気になります。もっと体験して、もっと楽しんでもらえる企画を考えなければという励みになります」。

「野菜やお米は1年ごとに成果が出ますが、果実は安定的に収穫できるようになるまで数年かかります。どの品種がこの土地に適するか、専門家の指導を受けながら見極め

からの観光客も目立ちます。「味が濃い」「甘い」「色つやが綺麗」「食べたことのないおいしさ」という反応があるといい、海外からの旅行者を取り込むツアーパックとの連携も始めています。2023年夏はここを含む沿岸を周遊するバスが運行され、エリアとしての賑わいにつながったとのこと。一時は静かだった地域に元気が戻ってきています。

の観光農園を訪ね歩いた経験をもとに、農園内の理想的な動線計画にも関わるとか。

カフェレストラン「Les Pommés」の人気は本格スパイスカレーと旬の果物を使用したスイーツ。



〈上〉子どもたちが自分で収穫した果物を調理するワークショップは食育としても人気。写真は「りんごヨーグルトスムージーづくり体験」。〈下〉野菜や果実が市価より求めやすい価格で並ぶ直売所「あらはまマルシェ」。「美丘」をはじめ、珍しい大粒のりんごなどのほか、お米や各種加工品も豊富。



オープンから2年、最も喜びを感じるの「やはりお客さまが『おいしい』『楽しい』と言ってくださること」。企画運営のヒントは日常業務の中にあります。「イチゴの実には赤い部分だけでなく小さなツブツブだよとか、専門家の先生と一緒に作業や食事をするなかでふと話題に出た内容を子どもたちに伝えると、目をキラキラさせて喜びます」。

現在は2027年の開業をめざして農園を拡大するプロジェクトが進行中。郷内さんは新農園の施設立ち上げに大きな期待を寄せています。ブライダル業界での経験や全国

自然と食とSDGs。

新たな観光の視点

新天地でホテルを再建

江戸時代に埋め立てによって築かれた気仙沼の港。古くからのカツオ漁、高度経済成長期のマグロはえ縄漁を中心に水産業を通して世界とつながり、まちの経済を支えてきました。

鈴木淳平さんはそんな気仙沼の顔である内湾地区で1892(明治25)年に創業したホテル松軒の4代目社長。東日本大震災ですべてを失いましたが、2015年11月、内陸の商業地区に「気仙沼セントラルホテル松軒」を再建しました。

あの3月11日の午後、鈴木さんは団体予約客のチェックイン準備をしていました。「建物が大きく揺れたとき頭にあったのは、お客様を迎えるのだから早く片付けなければ

を新築するという事業再建計画を練り上げたのです。

「再建をあきらめた同業の先輩から『お前は若いのだから頑張れ』と背中を押されたこと、自分の代で『松軒』の屋号を途絶えさせたくないという葛藤など、様々な思いがありました。適地を探すのに苦労しましたが、幸いにも要件を満たす現在の場所で見つかりました」。

かねてから市観光協会副会長として常に観光にアンテナを張ってきた鈴木さん。最も力を入れるのが、自然環境や地域の文化を守りつづレジャーを楽しむニュージラランド発祥の観光形態(アドベンチャーツーリズム)。そこにSDGs(持続可能な開発のための17の国際目標)と被災地観光の要素を取り入れた今までにない、新しい観光の形を鈴木さんは提唱します。

鈴木さんは提唱します。

気仙沼セントラルホテル松軒



自然×文化×体験のツーリズム

気仙沼は、唐桑半島の巨釜半造や大島の亀山、階上地区の岩井崎などの景勝地に恵まれ、海の幸も豊富。最近の「体験する」「学ぶ」体験型観光の人気や全国的なインパウンド(訪日客)の増加も踏まえたニーズの変化にも対応できるキャパシティがあります。

鈴木さんは、観光誘客の大き

なテーマとしてSDGsの視点や災害を体験したからこそ「被災の伝承」を掲げています。

展開するのは、マリッジヤ、星空を見るツアー、ピクニック体験などを盛り込んだ観光プログラム。例えば亀山展望台から見える星空の美しさは地元ではよく知ら

れていますが、初めての人は新鮮に映るはず。こうした気仙沼ならではの要素に繰り返し訪れてもらうための、付加価値を盛り込んだ魅力的なプログラムを企画しています。とはいえ震災からしばらくの間、まちには被災と観光を結び付けることへの強い拒否感が漂っていました。鈴木さん自身も当時は快く思っていなかったといいます。

「でも、被害の惨状と復興途

上の姿こそ見てもらわなくてはと考えが変わりました。なぜなら被災体験を通して地域の現状や歴史・文化に触れてもらうことは産業の活性化にもつながるからです。同時に、被災体験を伝えることは他の地域に生きる人のためにもなる。それこそサステイナビリティの最たるものです。観光でも取材でも、訪れた人に地域のことを理解してもらい、発信してもらうことの重要性

を痛感しています」。鈴木さんによれば「気仙沼の人はみな自己主張が強い(笑)」。この強さによって気仙沼では、それまで関連がなかったような人と人がつながり、異なる業種同士が出会って、喧々諤々しながらよい化学反応を起こしてきたといいます。

「天然温泉や寺社仏閣のような一般的に人気の観光コンテンツは、気仙沼にはあまりありません。ないものを追うよりも、すでにある資源に目を向けることが大切です。水産業と観光のミックスもあり得るし、個人的には収穫や料理も含めた食体験を核とした〈ガストロノミーツーリズム〉の構想も持っています。他地域の観光資源と線をつなぎ、広いエリアで海外からの観光客にアピールする視点も重要になってくるでしょう」。

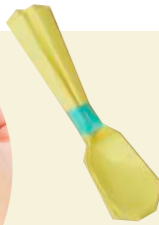
気仙沼は海によって人や文化が交流してきたハブです。海と生きるまちで、足元の〈光〉を〈観〉るという本来の〈観光〉が今、形をなしてきました。



〈上〉内陸の商業地区に再建された気仙沼セントラルホテル松軒。〈中〉気仙沼セントラルホテル松軒は今日も国内外からの宿泊客を迎えます。〈下〉ホテルのロビーには、震災当時の被災状況の写真や、がれきの中から奇跡的に見つかった風が。

machico防災部員が身近にあるものでつくってみた!

日常の食卓でも活躍!
紙のスプーン



紙のスプーンを作る時は、「折り紙よりも少し厚め」で「画用紙より少し薄い」紙を使うと作りやすかったです。厚い紙だと折る重ねるのにけっこうな力が必要でした。

A4サイズの紙があれば簡単にスプーンをつくることができます。紙を折り重ねて作るためしっかりとした強度があり、ご飯もスープも難なく食べられます。

材料は紙とテープとラップのみ!簡単なので、ファミリーであれば普段の遊びとしてお子様とつくるのも楽しいし、災害時は避難した際の息抜きや指先のストレッチにもなりそう。



色や柄が入った紙とお好みのマスキングテープで作れば、ホームパーティーなどでも楽しめそう!みんなでつくれば更に盛り上がりそうです。



染み込みを防ぐため、ラップを巻いて使います。ラップを取り替えば何度でも使用できるのがうれしい。柄の部分は握りやすく、安定感があります。

フィット感に驚き!
新聞紙スリッパ



土足禁止の避難所でスリッパがないことも想定されます。床の冷えやホコリから足元を守るために役立つのが新聞紙スリッパ。普段はお家の大掃除の際などにも役立ちそう!



別の新聞紙を折り畳んで底になる部分に差し込むと、スリッパに厚みが出てさらに快適に。厚みが少し加わるだけで温かさと履き心地が変化することに驚き!



つくる際は、紙がばらけている部分を内側に織り込むのがポイント!ほどけたり破れたりするのを防ぐことができます。



タブロイドサイズの紙を使えば、子供用サイズにもなります。家族みんなで、折り方の加減を工夫しながら自分の新聞紙スリッパを作ってみるのもいいですね。



フィット感があり、ほんわか温かい!新聞紙スリッパは普段のお掃除や応急的な冷え対策、アウトドアシーンなど、さまざまな場面で役立ちそうです。

紹介したアイテムの作り方の詳細は「じぶんごとワーク」のページで紹介しています!

普段のお買い物にも!
風呂敷リュック



大判の風呂敷や100cm四方くらいの布があれば簡単に作れる風呂敷リュック。荷物を背負うことで両手を空けることができます。



災害時は、「給水」にこのリュックが役立つぞう!内側にビニール袋を入れ、ここに給水してもらい口を固く結べば、タンク要らずで背負って運べます。

普段の生活でも使いたいアイテムばかり。自宅でも作ってみよう!



ぜひ普段から楽しみながら作ってみてくださいね

紙や風呂敷でここまで代用できるなんて驚きでした!



風呂敷の場合は、二人で作るのがオススメ。結び目を引っ張ってリュックの形になったときは感動!想像していたよりも、安心感のあるしっかりしたつくり。



45~65cm四方のスクarfやバンダナを使うと、かわいらしい手持ちかばんのできあがり。お財布とスマホがほどよくフィットし、ちょっとしたお買い物にちょうどいい!

machico 防災部 といっしょ

vol. 07



今回のテーマ
身近にあるものでフェーズフリーなアイテムを作ろう

「フェーズフリー」とは、日常的に使っているモノやサービスを非常時にも役立てようとする考え方のこと。「いつも」と「もしも」を区分しないことから、「備えない防災」とも言われています。今回は、東日本大震災前から地域で防災・減災に関する普及啓発活動を行ってきた「わしん倶楽部」の田中勢子さんに、フェーズフリーなお役立ちアイテムの作り方を教えていただきました。



教えてくれた人 / わしん倶楽部 代表 / 防災教育コーディネーター 田中勢子さん

体験してみた人 / machico防災部 てん ぶりばん

※詳しい作り方は9~10ページの「じぶんごとワーク」をご覧ください

machico 防災部(以下M) : 今回教えていただく紙のスリッパは、どのようなきっかけから生まれたのですか? 田中さん(以下田) : 今から15年ほど前、防災教育の活動の一環で幼稚園に伺った時に子どもたちが折り紙でカップや皿を作っていたんです。それを見て、スリッパも紙で作れないかと考えました。箸に比べてスリッパの備えは後回しになりがちですが、災害時でも小さな子どもや高齢者の食事などの場面で必要とされることが多いんです。紙とテープとラップがあればすぐに作れますし、紙だからこそ軽さもメリットだと思います。M : まさか紙でスリッパまで作れるとは、驚きです。田 : 紙なので、そのまま使えば水分が染み込んでしまします。そのため、ラップを巻いて使用するのですが、ラップを取り替えば、何度でも使えます。M : 紙やテープの色を変えて自分だけのスリッパを作れば、取り間違えないし、何より楽しいですね。しかも、想像以上に強度があつて驚きまし

た!スリッパに入った大きめの具も難なくすくえました。田 : 新聞紙スリッパや風呂敷リュックも、身近にあるもので簡単に作れて、日常の様々なシーンで使えます。日常生活の中で使い慣れておくと災害時に躊躇なく使えるようになるので、日ごろから自由な使い方を試してほしいですね。M : フェーズフリーは最近聞くようになった言葉ですが、田中さんはずっと実践されてきたんですね。田 : 災害時は予想外のことが起こるので、身近にあるもので何を作れるか、楽しみながら考えることも大切なんです。先人の知恵などを真似してみるのがいいですね。誰かの真似をしながら考えることで、必要なものを臨機応変に生み出す力が育まれます。私たちの活動のモットーは「臨機応変」と「とにかく楽しく!」。そんなふうには防災を楽しめる人が増えていったらうれしいです。

WHAT'S machico 防災部とは

仙台・宮城の人とまちを元気にする地域コミュニティサイト「せんだいタウン情報machico」の編集部員が、防災・減災に役立つスキルを体験して発信する「部活動」です。

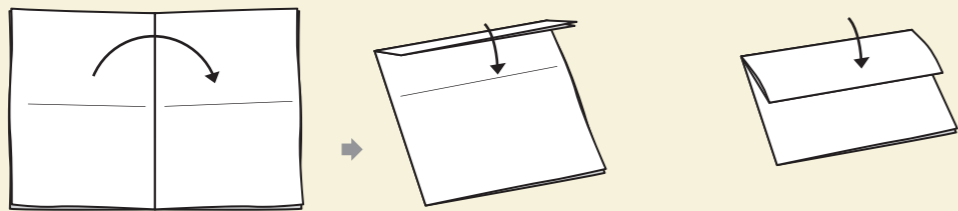
machicoからアーカイブが見られます!



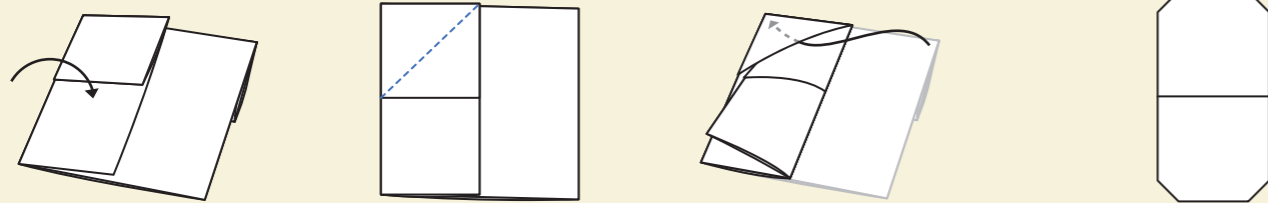
底の厚みを調整できる！
新聞紙スリッパ

【準備するもの(1人分)】 ○新聞紙2~4枚(8~10面分)

- 1 新聞紙2面分を半分に折り、片側を中央の折り目に向かってさらに半分に折る。
 2 ①をさらにもう一折する。



- 3 ②を裏返し、3等分に折る。その際、端が開く方が内側になるように。
 4 点線の部分を斜めに折り、内側に折りこむ。
 5 左側の袋状になっている部分に、右端の角が合うように折りこむ。
 6 四隅に三角形に折りすじを入れ、内側に折りこみ、完成。



濡れている場所では、上からビニール袋を履いて足首を輪ゴムなどで留めると防水に。(ただし、滑りやすくなるので注意)



底になる部分に、新聞紙1~2面分を折りこんだものを入れると厚みが増してより快適に。

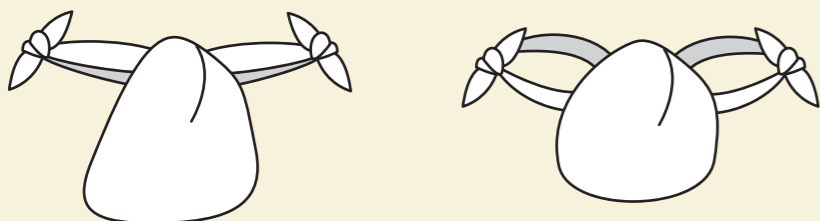
大事な荷物を背負える！
風呂敷リュック

【準備するもの】 風呂敷(もしくは正方形の布)

- 1 風呂敷(正方形の布)を二つ折りにする。
 2 両方の端をかるく1回結ぶ。
 3 ②の結び目を、左右から拾い結ぶ。



- 4 ③の結び目をまっすぐ横に引っ張る。
 5 ④で真ん中に袋が、左右に腕を通せるところが出来たら完成。



トートバッグ風を持つことも、リュックにすることも可能。45~65cm四方の布で作れば財布とスマホが入る巾着に。



風呂敷で作った場合の内容量は十分。写真は、マフラー、財布、スマホ、ポーチ、1リットルの水筒、折り畳み傘、小物入れを収納してもまだ余裕がある。

**フェーズフリーアイテムの
 作り方・使い方**

身近にある紙、新聞紙、風呂敷(もしくは正方形の布)で作れる便利なアイテムを紹介します。詳しい手順は動画でも解説していますので、下記のQRコードからご覧ください。

動画もチェック!

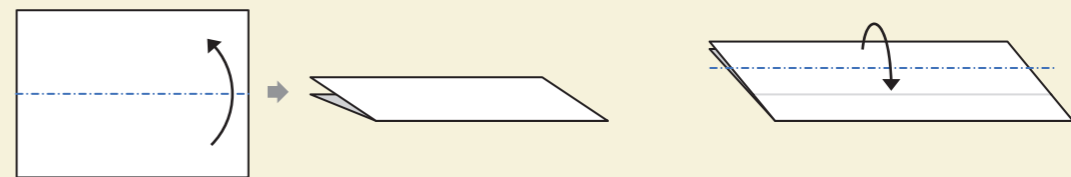


強度もバッチリ！
紙のスプーン

【準備するもの】 ○A4の紙 ○セロハンテープ ○ラップ



- 1 A4の紙を横にして二つに折る。
 2 山折りと逆の方を三分の一程度の幅に折る。



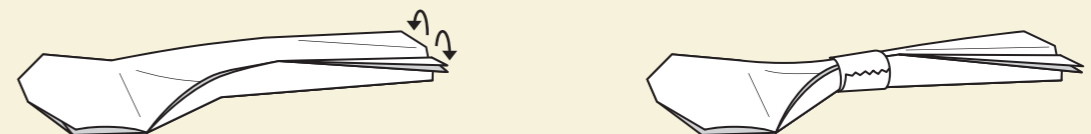
- 3 さらに山折りと逆の方を三分の一程度の幅に折る。
 4 ③を真ん中から二つ折りにする



- 5 折った部分の両角を、三角に折り目を付ける
 6 ⑤の折りすじに沿って、角を内側に折り込む。
 7 ⑥を親指(第一関節分)でくぼみをつくるように押さえながら、縦半分に折る。



- 8 スプーン先になる部分を残し、⑦で折った部分を紙飛行機の羽のように三角に折る。
 9 スプーンの付け根部分をセロハンテープで留めて、形を整えたら完成。



強度があり、ごはんやおかず、スープもしっかりすくうことができる。



テープがない場合はラップを巻き付けるのも可。非常持出袋にラップを備えておくも便利。

フェーズフリーとは、「平常時」と「非常時」という社会のフェーズを取り払い、普段利用している商品やサービスを非常時にも役立てること。非常持出袋に様々な場面で活躍する新聞紙とA4の紙、風呂敷を入れておくことをおすすめします。

レクチャー/わしん倶楽部 田中勢子さん

さきと みと

in 塩竈市

陸奥国一之宮・鹽竈神社と塩釜港を中心に成長してきた塩竈市。この地ならではの災害伝承と防災のかたちを学び、海の恵みを楽しまします。



発災から7日間の1日ごとの避難者数、避難所の食事、生活インフラの被害と復旧状況などをわかりやすくまとめた展示。

施設① 津波被害を知る 証言を聞く
避難を考える 復興を感じる

塩竈市 津波防災センター



備蓄倉庫には1386人分の食糧と水、救助資機材などを常時保管しています。



マリングート塩釜、さらに本塩釜駅方面を繋ぐ遊歩道「津波避難デッキ」。高さ5メートル超、長さ372メートル。

震災伝承と有事の一時避難場所 2つの役割を持つ海辺の施設

津波避難ビルでもある塩釜港旅客ターミナル（マリングート塩釜）に直結。東日本大震災の発災から7日間のドキュメントを時系列で表したタペストリーを展示するほか、震災当日に福島県相馬市の沖合約5キロで津波に遭遇した宮城海上保安部の巡視船「まつしま」がとらえた映像なども見ることが出来ます。この施設の特徴は、一時避難所の役割も担うということ。有事の際には、浦戸諸島（桂島・野々島・石浜・寒風沢島、朴島）への定期船や松島観光遊覧船の利用者が避難する場として、3日分の水や食糧、毛布などを備蓄しています。

問 津波防災センターは離島に住む人たちが島に帰ることができなくて困った際に宿泊を受け入れることができます。たとえばどんなときでしょう。

答

DATA ●宮城県塩竈市港町1-4-1 ☎022-794-7232 ●9:00～17:00 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）・毎月第2火曜日（第2火曜日が祝日の場合は第2水曜日）、年末年始（12月29日～1月3日） 入場料無料 🌐https://www.city.shiogama.miyagi.jp/soshiki/9/2479.html



全国53自治体・団体から復興支援のため派遣された職員の名を刻み、感謝の意を表しています。

未来を照らす復興のシンボル「昇る太陽の塔」

塩釜湾の最奥に位置する千賀の浦緑地。塩竈市東日本大震災モニュメントは、太平洋の日の出をイメージした「日の出石」と高さ4・7メートルの4本の石塔「昇る太陽の塔」、そして塔の周りを囲む12の「時の縁石」の3基から成ります。太陽が塔に向かって昇っていくデザインは過去から現在、未来へと続く時間の経過を表現。また、「日の出石」の表面には復興の願いを込めた未来へのメッセージを、裏面には犠牲となった市民の名前を刻み、震災の記憶を風化させることなく後世に伝えていきます。



船舶を安全に導く導灯は2基（前灯・後灯）一対。航路変更に伴い平成26年に廃止された塩釜導灯は94年間夜の航路を照らし続けました。写真は前灯上部7メートル。



大津波を乗り越え行方不明者を捜索した巡視船「おしか」の錨。35年間の航海距離は約111万キロメートル、地球27周分を越えました。

施設② 津波被害を知る 祈りをささげる
アートを見る 避難を考える まちを感じる

塩竈市 東日本大震災 モニュメント



現地に到達した津波高2.3メートルと同じ高さが刻印された「昇る太陽の塔」。



「日の出石」には市民公募による力強いメッセージ「自然の力を 心に刻み 未来を見つめ 塩竈に生きる」が刻まれます。

問 モニュメントのある場所からはマリングート塩釜とJR本塩釜駅前の商業施設を結ぶ長いデッキが見えます。何のために作られたのでしょうか？

答

DATA ●宮城県塩竈市海岸通196-4千賀の浦緑地内 ☎022-355-5007（塩竈市総務部総務人事課） 🌐https://www.thr.mlit.go.jp/shinsaidensho/facility/miyagi-2-017.html





豊かな自然と多くの文化財がある塩竈エリア。まちのシンボルでもある塩釜港は日本有数の生鮮まぐろの水揚げ港としても有名です。

さてみてマップ

- ③ 塩竈市杉村惇美術館
- ② 株式会社佐浦(浦霞)
- ① 鹽竈神社

ひとやすみスポット



塩竈市ゆかりの洋画家・杉村惇氏による静物画作品やモチーフ資料が展示されているほか、企画展やワークショップなども開催され、文化交流の場となっています。塩竈市の有形文化財に指定された貴重な建築としての見どころも満載です。
DATA ◎宮城県塩竈市本町8-1 ☎022-362-2555 ●10:00~17:00(入館受付は16:30まで) ●日曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日。但しGW等の長期連休の場合は除く)、年末年始(12月28日~1月4日) ☎https://sugimurajun.shiomo.jp/



宮城が誇るお酒、「浦霞」の醸造元。「浦霞発、日本酒文化の発信」をテーマに、宮城県内限定の浦霞製品をはじめ、宮城県在住の作家さんの作品や浦霞オリジナルの雑貨なども販売しており、お酒が飲めない人でも楽しめるスポットです。
DATA ◎宮城県塩竈市本町2-19 ☎022-362-4165 ●10:00~17:00 ●毎週日曜日、年末年始、その他臨時休業日有り ☎https://www.urakasumi.com/



古くから東北鎮護・陸奥國一之宮、そして日本各地の鹽竈神社の総本社として信仰を集め、海上安全、大漁祈願、安産祈願にご利益があるとされています。塩釜のシンボルであり、「塩の神様」を祀る神社です。同一境内には志波彦神社が鎮座しています。
DATA ◎宮城県塩竈市一森山1-1 ☎022-367-1611 ●5:00~18:00(3~10月)/5:00~17:00(11~2月)境内の参拝は自由 ☎http://www.shiogamajinja.jp/

INFORMATION

3.11みやぎ語り部講話

みやぎ東日本大震災津波伝承館にて 毎週土曜日11:00~12:00、13:30~14:30に開催中
 ※講話者等、詳しくはQRコードのウェブサイトをご確認ください。※午前のみ開催の日がありますので、事前にQRコードのウェブサイトでご確認ください。
 ○入場無料 ○事前予約不要



LINE公式アカウントを開設しました!

「みやぎ東日本大震災津波伝承館」に関するお知らせや、震災伝承・復興イベント情報などをプッシュ型でお届けします。



お友だち登録
よろしくお願
いします!



SNS「いまを発信!復興みやぎ」



宮城の復興の「いま」をSNSでお伝えしています! 皆さまからの投稿もお待ちしております!

Facebook



X (旧Twitter)



Instagram



施設③

- キ-ワード
- ☐津波被害を知る ☐証言を聞く ☐復興を感じる
- ☐地場産品を買う ☐地場産品を食べる

塩釜水産物仲卸市場



歴史ある仲卸市場兼小売市場 唯一無二のスタイルで今日も満足!
 協同組合塩釜水産物仲卸市場が運営する市場の歴史は約60年。飲食店を含め100店舗とスケールは東北最大級で、卸売と小売が共存する形態も独特です。メバチマグロのブランド「三陸塩釜ひがしもの」をはじめ、目利きの仲買人が仕入れた新鮮な魚介や確かな技術が生み出す加工品がずらり。なんととっても卸値で買いたい求められるのが魅力です。人気は購入した海産物をその場で味わえる「マイ海鮮丼コーナー」。市場副理事長の今野元博さんがリーダーを務める「プリジッププロジェクト」では、子どもやファミリーをターゲットにした、市場とまちを盛り上げる多彩なイベントを企画・運営しています。



お好みの海産物を購入後、「6号売場」のマイ海鮮丼コーナーでごはんも購入。きれいに盛り付ければオリジナルの「マイ海鮮丼」の完成です。

〈上〉25のマグロ専門店のほか、趣向が異なるお店がずらり。珍しい海産物も手に入ります。〈下〉新鮮なマグロをさばく様子も見ることができます。



人気企画「市場でマルシェ」など、さまざまなイベント、ワークショップを開催。業界内でも課題となっている事業承継問題にも積極的に取り組みます。

問 仲卸市場内のお食事処では共通の特色があります。どういった特色でしょうか。

答



買った魚介類をその場で焼く自由焼炉や幅広いジャンルの飲食店もあります。



新鮮な海産物がお手ごろな価格で並びます。

DATA ◎宮城県塩竈市新浜町1-20-74 ☎022-362-5518 ●平日3:00~13:00(食事は6:30~12:00)・土曜日3:00~14:00(食事は6:30~13:00)・日祝6:00~14:00(食事は6:30~13:00) ●毎週水曜日 ※場内店舗の営業時間はそれぞれ異なります。午前の来場がおすすめです ☎https://www.nakaoroshi.or.jp





3・11の体験が 防災ボードゲームに

震災後の仙台市で生まれた『仙台発そなえゲーム』。『災害に備えるために、何が必要か・何ができるか』について、参加者みんなで相談し考えながら学べるボードゲームです。

開発の中心を担ったのは太白区東四郎丸児童館を管理するNPO法人「FOR YOU」にここの家」。理事長の小岩孝子さんは震災当時を振り返ります。「大きく揺れた直後から東四郎丸児童館に地域住民の皆さんが避難して来ました」。最終的に児童館には300人が身を寄せ合い、不安な一夜を過ごしました。「誰もが不安な状況の中、高校生は動かなくなった自動ドアの開け閉め役になり、中学生は乾パンを配る手伝いをして、『俺はラジオを聞いて起きているから、みんな安心して寝ている』と言ってくれた高齢

NPO法人「FOR YOU」にここの家」の 仙台発そなえゲーム

男性もいました。お互いを思いやることで自然に役割分担が生まれしました」。小岩さんは、この体験が『仙台発そなえゲーム』開発のきっかけになったといいます。

ゲームでは、5〜6人が1グループになり、架空の町の

架空の住民になりきって、防災・減災の備えや災害時の行動・心情などを考えながら進めます。当初、「架空の住民になりきること」は、防災を自分事として捉えられないのではないかと、反対の声もあつたといいます。しかし、震



架空の町の地図と災害に備える『もの』『こと』のカード。青は「あるといいもの」、緑は「地域や町内会にあったらいいこと・いいもの」、黄色は「自分が地域のためにできたらいいと思うこと」。



遊び方を説明する小岩さん。子どもも大人も一緒に参加できるゲームで、10代から80代まで架空のプロフィールが書かれたネームプレートを付け、その人物として自己紹介するところからゲームが始まる。

災の当日、児童館で誰から指示されたわけでもなく、避難者それぞれが自分にできることを考えて行動した経験から、小岩さんはこの「疑似体験」方式を強く推薦しました。開発には地域住民をはじめとして100人ほどが関わり、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震の経験者、消防署や研究者、石川県輪島市から復興支援に来た人などのアドバイスを得て会議や作り直しを重ね、2013年に完成しました。

誰かの立場になって 災害時の状況を想像

架空の住民を自分に置き換えてたり、なりきった住民目線が必要な『もの』や『こと』を考えたことは、災害時の自助・共助を体験することにもなります。「輪島市でゲームをお披露目したとき、

できあがった地図を見た小学生が『やさしいまちになったね』と言ったんです。山形市

で行ったときは、ゲームを始める前は『何これ？（笑）』という様子だった高校生の男の子が高齢女性の役を体験した後、自分のおばあちゃんのことを考えて「ばあちゃんに電話しようかな」と言ったのも印象に残っています。教育現場から「他者の立場を考えることが良い」との声をいただくこともあるそう。

自助・共助を体験し、防災について子どもも大人も一緒になって楽しみながら考え、学ぶことができる『仙台発そなえゲーム』は、社会全体の防災意識向上に寄与する取り組みとして、様々な主体から期待されています。

Baton

発行元

宮城県震災復興本部
(事務局:復興支援・伝承課)

〒980-8570

宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL:022-211-2443

